



子ども大学学生新聞

第14号
子ども大学
かわごえ新聞部

池上彰教授の「やさしい経済学」

4月19日「お金はどうして生まれたのか」

四月十九日、東京国際大学第一キャンパス314教室で、東京工業大学の池上彰教授による「やさしい経済学」の授業がありました。出席者は四年生三三人、五年生五九人、六年生五九人の計一五一人。保護者は一二人、きょうだいは七人でした。

一時間目は「お金とは何か？」についての講義でした。まず初めに一円はなぜ二万円なのかという問題が出されました。学生から「二円玉一万个分の価値

がある」「日本銀行って書いてあるから」などの答えがありました。正解は「お金だから」でした。みんながお金だと思っ

ているから、お金だそうなんです。また、いま話題の「ビットコイン」についての話も出てきました。ビットコインを使っている人は、ビットコインをお金だと思っ

ている人です。なので、ビットコインをお金とは思っていません。つまりお金は信用なのです。さらに、「お金はどうして生まれたのか」という話も出ました。昔は物々交換

をして、欲しい物を手に入れていました。これがたとえ交換する相手がいないと成立しないので、だんだんと不便になってきました。

そこで、まずは市場(交換したい物を持つて集まる場所)を作って、さらに集まる日にちも決めました。「八日市場」という地名は、八日に市場が開かれたところ

です。ここでまた問題が起きました。それは交換する物が腐(くさ)りはじめたことです。そうすると今度は腐ら

ずにみんなが欲しいが、きれいな貝と交換するようになりまし。これがいまのお金の始まりです。

今は日本銀行だけが紙幣(しへい)を発行してありますが、昔はそれぞれの銀行が紙幣を発行していたそうです。しかし、紙幣の元になる金(ゴールド)が、それぞれの銀行の金庫にある以上に紙幣を発行してしまつたため、つぎつぎと倒産



していきました。

そこで、その問題を回避(かいひ)するために作られたのが日本銀行だです。ほかの国では、まだ複数の銀行が紙幣を発行しているそうです。池上さんはそのお札を見せてくださいました。お札が長持ちするようにプラスチック製のものもあり、偽造(ぎぞう)されな

ための工夫が、たくさんあるそうです。

(川村弘希記者 中央小6年)

人を助けるのが経済
二時間目の講義は「経済とは何か」についてのお話でした。最初に「経済」という言葉の意味を教

えてくださいました。経済とは「経世在民」という言葉が元になっています。「経世」とは、世の中をうまく動かすこと。「在民」とは、人民を助けることです。

つぎに池上先生が考える経済学とは、どういふものなのかというお話がありました。経済にとって大事なことは、資源の最適配分です。例えば石油、水、天然ガスなど限られた資源の有効活用や、また、人も大事な資源です。失業者が多いということは、人の資源が最適配分されてい

ないということになります。三番目に「需要と供給」(じゅようときょうきゆう)についてお話がありました。例えば、会社のトップが工場です。需要を何足つくるかを決めたとします。最初は需要が多いと思われる女性用のブーツをつくる予定でしたが、材料が届かず、普通の長ぐつを作ってしまったので、

まったく売れませんでした。これは、需要と供給が上手くいかなかったという例です。四つ目に「自由競争」についてお話がありました。一つの例として、アメリカで航空料金を自由にしたところ、ニューヨークとロサンゼルスの間は料金が安くなりました。ロサンゼルスと他の州をつないでいる航空会社が二つあってライバル(競争相手)とします。そこで、一つの航空会社が料金を安くしすぎて、つぶれてしまったら、片方の航空会社が独占状態(どくせんじょうたい)になり、料金が非常に高くなっていきました。

そのことで利用者にとって不利益が生じます。これを自由競争における市場の失敗といえます。そこで、消費者が不利益を受けないように、政治が法律をつ

きょう第七期入学式

子ども大学かわごえの第七期入学式が、きょう六月二十八日、尚美学園大学。パストラルホールであります。今期の応募者は二二三人。入学者は一八八人(四年生六八人、五年生四六人、六年生七四人)でした。入学式では遠藤克弥学長のあいさつ、来賓祝辞のあと、六年生代表による新入生歓迎のことば、子ども大学ジュニア合唱団による合唱、オリエンテーションがあります。

くったり、利用者を保護するモデルをつくったりという役割を果たします。

うな重の値段のつけ方

五つ目は、人間は合理的に物事を判断できるかどうかということについてのお話がありました。次のような心理テストから、人間がいかに合理的な判断ができないかということが示されました。

まず最初に、会場の学生たちに、次のような問いかけをしました。

「千円と二千円のうな重があります。あなたたちは、どちらを買いますか?」
結果は、千円のうな重を買ったと答えた人たちが全体の六割でした。二千円のうな重を買う人は四割でした。

今度は質問の内容を変えました。千円と二千円と三千円のうな重、三つの価格で買う人の割合を聞きました。なんと、結果は二千円のうな重が一番多かったのです。

これはどういうことかという、三千円の価格を追加することによって、今まで最高と聞いていた二千円のうな重も、少し安く感じさせる心理的な作用を上手く使った例です。

ここで池上先生が経済から少し離れたお話をされました。「機会費用」ということについてです。機会費用とは何かというと、例えば今日の講義を聞きに来ている学生たちは、買い物に行ったり、遊びに行くこともできたのです。このように、ある一つのことを選択して、犠牲にしたその他のことを機会費用といえます。

次に、学問が経済にとつていかに大事かということをお話になりました。例えばフリーピンでは授業料が無料にもか

かわらず、学校に行く子どもたちが、非常に少ないのです。

それは、勉強する時間をけずって、親たちが子どもたちを働かせてしまっからです。結果的に、大人になっても、文字が書けない、計算が出来ない人たちが大勢いて社会全体の経済水準が上がらず、貧しさから抜けられなくなってしまうのです。

最後に、税金によって国が成り立っているというお話がありました。税金は住民税、所得税、消費税など、国民が働いたお金の中から、国に投資しているといえます。

世の中のためになることをしてお金をもらい、お金をためて税金を払い、国が税金で国民のためになることをしています。いろいろ勉強になりました。(佐野寛太記者 高階小6年)

池上先生にインタビュー

疑問を持つことが大事

Q なぜ、このテーマを選んだのですか
A このテーマにしてくださいとお願ひされたからです。

Q いま気になるニュースは何ですか
A ウクライナ情勢です。

Q いま便利と思うものは何ですか
A パソコンやインターネット。本を年間一五〇冊、原稿用紙にして四〇〇枚から六〇〇枚書いていますが、これらを使うと便利です。

Q 子どもが政治や経済を知ることについて、何をみるのが一番いいですか
A テレビや新聞、本、何でもいい。でも疑問や分からないところを大切に

にして、大人に聞いたり、図書館へ行って自分で調べることだね。
Q おすすめの本は何ですか
A 自分で見つけてください。本屋さんや図書館に行くこと。



Q 経済に英語は必要ですか
A いまの世の中、何かするとき、英語は必要です。

授業を聞いて…学生の感想

星野学園小6年・斉藤世啓君

今日の授業では、日本以外の国のお金や『経済』の語源、インフレなどについて、楽しく、そして面白く教えていただきました。すごく勉強になりました。

(増田夢美記者 名細小5年)
新宿小5年・小島大和君
Q うれしかったことは何ですか
A 池上先生の授業を受けられたことです。

(山口航記者 中央小6年)
福原小5年・ふかみみくさん
今日の授業は、ちよつとむずかしかったけど、けいさいとか、お金のことが分かって、よかったです。

(十重田妃菜記者 福原小6年)

星野学園小5年・日野晴菜さん

「今日のこうぎは、世界のお金を見せてもらったし、池上さん本人に会えてよかった。めずらしいけいけんができました」
(大和日菜記者 星野学園小5年)

福原小5年・安藤昭乃さん

今日の授業はどうでしたか
A 百兆ジンバエブドルにビックリした。

寺尾小5年・河野友里さん

今日の授業で初めて知ったことは何ですか
A 昔は貝がお金だったこと。

浅野璃子記者 杉下小6年

◇霞ヶ関中1年・鈴木悠太郎
授業で一番面白かったことは?
A ソ連の話です。

どこが面白かったですか

Q 人にはやはり欲望というものがあるんだなというところがです。

この授業で一番印象に残ったことは何ですか

A なぜお金には価値があるのかという話です。

斉藤和原シニア記者 大東中1年

記者の感想
土田利子記者 山田小5年 「池上先生の授業は、分かりやすく楽しくかったです。特に興味を持ったのは、漢字に貝がつくものは、お金に関係するものだということです。ゼロがたくさんあるお金にびつくりしました。また子ども大学で授業をしてもらいたいです」

4年生の新聞部員を募集

新聞部は四年生の新部員を募集しています。希望者は、きょう二十八日、授業が終わってから会場出口に集まってください。